

でんとうてき たんば ささやま
 (2) 伝統的な工業がさかんなまち 丹波篠山市

たんば たちくい やき
【丹波立杭焼】

この前、丹波篠山市に旅行で行くと、こんな地図を配っていました。



丹波篠山市では、なぜ焼き物づくりがさかんなのでしょう。

かまもと 窯元
 窯元とは、焼き物を作っている場所や人のことです。



地図提供：立杭 陶の郷



たんぼ ささやま
丹波篠山市はどんなところなんだろう。

丹波篠山市は、兵庫県の^{ちゅうとうぶ}中東部の^{たんば}丹波地域の^ち位置し、^{ささやまぼんち}篠山盆地の中にあります。

四方を山で^{かこ}囲まれているため、夏は暑く冬は寒さが^{きび}厳しい^{とくゆう}盆地特有の^{きこう}気候が^{とく}特ちょうです。



丹波立杭焼を調べてみましょう。

たんぼ たちくい やき 【丹波立杭焼とは】

丹波立杭焼は、兵庫県だけでなく日本全国でも有名な^{でんとうこうげい}伝統工芸の作品です。およそ800年の^{れきし}歴史を持ち、古くから日本に伝わる有名な6つの「焼き物」のうちの一つです。



丹波立杭焼 (完成品)



原料の土は、どこでとっているのでしょうか。

丹波立杭焼の^{げんりょう}原料となる土は、^{やまつち}山土と^{たつち}田土とよばれ、もともと、地元でとれる土を使っていました。今は、山土は^{さんだ}三田市で、田土は^{ジェイ}J^{アル}アル^{ささやまぐち}ささやまぐち^{しゅうへん}篠山口駅周辺でとれる土を使っています。

また、焼くときの^{ねんりょう}燃料になる木も、山に^{かこ}囲まれた丹波篠山市にはたくさんありました。

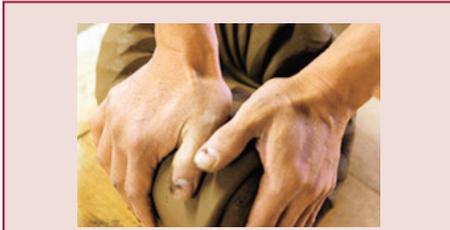


とうど
陶土

資料協力：立杭 陶の郷



たんばたちくい焼き
丹波立杭焼は、どのようにしてつくられているのでしょうか。



ねん土をこねる
① よくこねて、中の空気をぬきます。



形をつくる 丸い物をつくる時は、ロクロを使います。
②



すや素焼き
④ 750度～900度で一度焼きます。



かわかす
③ 天日で3～4日かわかします。



くすりかけ
⑤ 釉薬（うわぐすり）をかけます。



本焼き 数日かけて、1250度～1300度の温度で焼きます。
⑥

資料協力：立杭 陶の郷

丹波立杭焼を広めるために



丹波篠山市の今田町では、今から100年以上前につくられた登り窯が大切に残されています。また、毎年10月には、陶器祭を開いて、丹波立杭焼のよさを広めようとしています。



のぼり窯

丹波焼に現存する
最古の登り窯

資料協力：立杭 陶の郷